

＜今日の説教のポイント 使徒言行録1章1～11節＞

復活された主が弟子たちと共に過ごされた後、昇天された意味とは？

1 復活後の40日間に弟子たちに繰り返し教えられたことは何？

神様がご計画された救いの業ですから、御子の誕生、十字架の死、復活、そして昇天と弟子たちへの聖霊降臨、一つ一つのことに意味があるはずです。復活された主は、「40日にわたって彼らに現れ、神の国について話された」(3)、とルカは記します。主は、神の国は今この時に関係するものであることを繰り返し弟子たちに教えられたのです(ルカ福音書17:20 以下参照！「国」の原意は「支配」)。弟子たちの世界宣教への力の源はここにあると言ってもいい大事な時期がこの40日間なのです。では、なぜ主はそのままいて下さらず、昇天されたのでしょうか？

2 昇天され、いなくなられたのはなぜ？

主が昇天された時の様子をルカは、「雲に覆われて彼らの目から見えなくなった」(9)と記しています。どこかで聞いた表現です。そうです、エマオの村で、「二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった」(ルカ24:31)、のでした。ですから、「見えなくなった」のは悪いことではなく、「(心の)目が開け」、いつも復活の主がそばにいて下さっていることが分かったという、いいことなのです(幼児の成長と比較。お母さんが見えなくてもそばにすることが分かるようになって行く)。この神様がおられることを知った時から、人生はこの神様への希望を抱いて生きられるものに大きく変わるのです！

3 待てることも信頼の証し。但し、この神様だからこそ待っていい。

主が昇天される時に、弟子たちに命じられたことは何でしたか？ 聖霊が降るのを待つことでした(4, 5, 8)。すぐに結果を求めず待つこと。モーセが神様から十戒をいただいて帰るまでの40日間を待てず、人々は金の子牛像を作って礼拝しました。待てないのは相手を信頼していないしるしです。また本当に信頼できない相手をいつまでも待つのも正しいとは言えません。しかし、御子による救いを与えて下さった聖書の神様は信頼して待つことのできる方なのです！そして、待つことの中にもまた意味があるのです。来週の箇所はそれについて教えられます。